

恩師探訪

能代高校において教鞭をとられた先生方に当時の思い出を綴っていただく「恩師探訪」のコーナー。今回は大山行夫先生に筆を振るっていただきました。

樽子山と高埜と



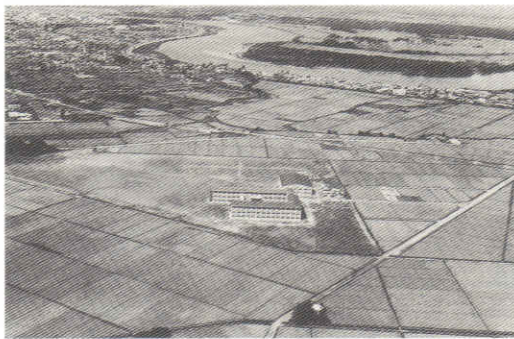
《職員写真》
昭和50年当時、職員室での筆者。

大山行夫先生

が口頭で読み上げただけで、「後でプリントを渡すので確認されたい」——会議は終わった。職員室の自分の机を整理して帰宅しようとした矢先、「大山先生、あなた新入生の担任ですよ。入学式前の仕事があります」と山崎富之助先生が私を呼び止めたのには驚いた。先生は新一年の学年主任だった。異動で能代高校の大山教諭が一人から三人になった。校長も教頭も会議の前に担任については一言も伝えてくれなかった。ほろ苦い思い出として忘れ難い。今から思えば大らかで、こだわりが無い良き時代でもあった。

能代高校への赴任は、昭和十九年四月。前任校の大館鳳鳴高校の山岳部員が、岩木山で遭難した年の春であった。私は憧れの能代高への転任が二十代最後の歳で実現した喜びに浸っていたものだ。それは前年の夏、能代高が初の甲子園出場を果たした快挙による喜びであった。当時県内の高校球界では、秋田市域内の高校だけが甲子園出場権を独占していた。その厚い壁を東北の進学校能代が突き破った。ここから県内高校野球史が大きく変わった。

この新任校での最初の驚きは年度頭初の職員会議であった。何と、校務分掌の発表は、教頭



《高埜校舎の全景》
高埜原頭に建った新校舎の周辺は、田んぼだけだった。

十月の末、高埜原頭に建った新校へ移転した。当時、特に三年生の保護者の移転反対の気運は根強く、なかなか収まらなかった。目前に大学受験を控えての環境変化を思えばのことである。明けて昭和五十年の三月一日の卒業式は、新校舎からの初の巣立ちであった。そしてこの学年も私の三度目の卒業学年であった。

高埜校舎は、まさに田んぼの中の一軒屋であった。冬、風雪で校舎の姿が見えなくなる。全く、「幻の城」と呼ばれた現象に偽りない。通学の途中、強風に足を取られて田んぼの側溝へ飛ばされた女生徒もいた。

昭和五十三年三月の卒業学年は、私が大学受験の調査書を手渡した四度目の、そして能代高最後の担当学年でもあった。カーボン紙による複写→青焼き紙→白いコピー紙。調査書にも時の流れがあった。

能代高校在職二十一年で退職。

同窓生から

校歌に感謝



浅田 嘉美
(第17期)

第十七期が入学した年の十二月八日、我が国は支那事変を抱えながら、大東亜戦争（太平洋戦争）に突入しました。教育も戦時色に急変、三年生から少年兵に志願を奨励されて入隊する者、軍需工場への学徒動員、食糧増産にかり出されるなど勉強の出来ない日々を過ごし、やがて終戦を迎えたのです。以来、六十年余の星霜が過ぎました。

とし祝いは数え歳で行われ、七五三から始まります。私は来年（二〇〇七年）八十才になります。昔は、役場で養老式と言って七十才以上の方のために長寿を祝ってくれました。また、八十才になった方には杖の上に鳩をかたどった立派な杖が贈られ祝福されたものです。高齢の方は、それぞれの地域で尊敬され大事にされました。

友人の絆は、中学校時代に培われたように感じます。社会に出て一家を築く時代は、仕事に没頭する余り、その絆を暖める機会も少なくなりました。しかし、六十才を目前に、精神的にも余裕が出来る年代になるのか、同期会の度に顔ぶれも増えるようです。でも最近、健康を理由に参加者が少なくなってきました。集まる者がいる内は

続けようと頑張っています。同期会には校歌と応援歌が付きもので、歌の終わり頃から本音が出てきて宴会の酒肴に変わります。（実に良くできています。ものです。）

卒業以来、母校に足を運ぶ機会がありませんでしたが、最近、学校行事に参加した時のことです。校歌の斉唱が始まり一緒に歌い始めた瞬間、声が震え目が潤み、歌も伝わらぬ程感情が高ぶり感激いたしました。それは、歌った場所が母校であったからでしょうか。崇高な一時でした。

同期会の度に校歌を歌いますが、心に染みる感情とまでは行きませんが、それは、飲み屋という雰囲気と母校という場所の違いでしょうか。遅まきながら母校に頭が下がる思いです。ありがとうございます。

この先は、元気な内に応援団の皆さんと能代高校校歌・応援歌を野球のメック・甲子園で声の続く限り歌いたいものです。母校の球児のみならず、ご精進下さい。吉報をお待ちいたします。

我等新制八期同志



佐藤 満
(新制八期)

昭和三十一年の新制八期生のほうが長年そう呼んで来たのでなじみがあります。物故者が出て直後の一報があれば必ず、同期生一同の弔電を差し上げるようにして居ります。関東地域に五十五名、秋田市に約二十名、能代山本郡内に約五十名が住んで居ります。七十才にもなり高齢ということ、近年は毎年一、